

[第29回学術集会 学術集会長企画]

グリーフケアとしてのエンバーミングの実際

株式会社公益社エンバーミング事業部

宇屋 貴

エンバーミングとは、故人とのよりよいお別れのために、ご遺体に防腐・殺菌処置を施し、生前の姿に近づける科学的技術です。

私がエンバーミング事業に携わり始めた約20年前、多くの方から「日本はすぐ火葬するのだから、日本では増えるはずがない。ドライアイスでじゅうぶんだよ」とよく言われました。その時からエンバーミング処置件数は、年々増加し年間51,000件(2019年/IFSA一般社団法人日本遺体衛生保全協会調べ)を超えるエンバーミング処置が日本国内で行われています。この増加トレンドは、弊社も同じです。弊社では年間6,300件強(2020年度)のエンバーミング処置を行っています。数多くの「エンバーミングにご満足くださった方の声」が寄せられます。数多ある葬儀サービスのなかでも、ご遺族にとって「故人のためにできるだけのことをしてあげられた」と感じることができる、最も満足度の高いサービスの一つとなっています。

それは、いったいどうしてでしょうか。

巷には、「エンバーミング」について事実とは異なる情報も数多く流布しています。そこで、当該講演では本やインターネットにはあまり載っていないエンバーミングの現場の「本当の話」をお伝えいたします。

主なコンテンツは以下のとおりです。

- ・私がエンバーマーになった本当の理由とは？
- ・今、なぜ日本でエンバーミングが求められているのか？
- ・エンバーミングが遺体を衛生的に保全するためのベストな処置だと言われる本当の理由とは？
- ・亡くなり方で、ご遺体の状態は変わるのか？
- ・エンバーミングをすると、なぜご遺族は満足されるのか？

・「グリーフケアとしてのエンバーミング」その本当の意味とは？

・エンバーマーになるために必要なこととは？

適切なエンバーミングを施すためには、その処置者つまりエンバーマーは病理学・解剖学等の医学的知識や、葬儀・遺体衛生保全に関する専門知識が必要です。そのため日本で「IFSA認定エンバーマー」として活動するためには、2年間IFSAが認める教育機関で様々な科目を履修し、最終的にIFSAのエンバーマー試験に合格するか、海外でそれと同等の教育を受けてきたことを証明する必要があります。

活躍しているエンバーマーの経歴は、元看護師・元臨床検査技師・元葬祭ディレクター・元商社営業マン・元自衛官・元美容師・元湯灌師等多種多様です。日本で稼働している一般社団法人日本遺体衛生保全協会(IFSA)認定のエンバーマーは約200名ほどだといわれています。

昨今IFSA認定のエンバーマーは、厚生労働省が認めた研修(エンバーマーのアドバンス研修のような内容)が受けられたり、防衛省の予備自衛官補を受験できたり、と社会的な役割が広く求められ、認知度も上がりつつあります。

また、それらに加えて弊社のエンバーマーは、エンバーミングだけでなく、エンバーミングの技術情報の収集を海外から行ったり、遺族会(ひだまりの会)の運営に携わったり、医療従事者・介護関係者への死後処置・エンゼルメイク・エンゼルケアセミナー講師を務めたり、海外への遺体移送業務を行ったりと故人の尊厳を大切に守り、ご遺族の人生のマイナスからプラスへのステップを支える最良のパートナーであるためには何をすべきかを日々追求しています。